

(別記様式)

令和6年度 京都府立向日が丘支援学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・**実施段階**）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
◆教育目標「自分らしく 人とともに 今を生きる力を」の実現に向けた方策を学校経営の中で具現化・具体化し、発信する学校を目指す。 ◆全ての児童生徒が、社会の中で幸せな人生を実現する力を獲得するために、一人一人の可能性に着目し、徹底して可能性を伸ばす教育を実践する学校を目指す。 ◆地域社会と連携協働し、共生社会の形成に積極的に貢献する学校を目指す。	仮移転という教育環境の大きな変化に対して、児童生徒の安心安全を最優先しながら新たな教育の場を創造するために全教職員の総力を結集して取組を進めた。 ○学校経営 Team New Visionを中心として、仮移転を新たな学びの機会の創造と位置づけ、全校で全力を挙げて取り組んだ。施設設備上の課題に対しては、府教委との緊密な連携の下、対応してきたが、学校として様々な工夫を凝らし、新たな教育環境作りによりその時々に行える最大限のことを成してきた。また、仮移転の状況等を積極的に発信し、情報共有に努めた。消防、PTAとも連携し、避難訓練を何度も実施するなど、徹底した安心・安全の実現に向けて取り組んできた。 ○教育活動 仮移転後の環境を生かし、新たな交流及び共同学習の姿が生まれつつある。授業改善研究を組織的に進めてきており、自立活動の指導の充実等の課題に向けた一層の研鑽が求められる。	仮移転2年目として、以下の重点項目に組織的に迫ることから、令和9年度の「地域社会とともにあり、共生社会の形成に貢献する学校」像を具体化する。 ○学校経営 ①仮設校舎で1年間を過ごす初めての年度として、可能な限りの想定に基づいた適切な教育環境の創造と充実 ②保護者、地域住民等へのタイムリーな情報提供 ③地域社会と連携協働し、地域社会に貢献する学校経営の推進 ④特別支援学校に勤務する教職員、教育公務員として、指導の専門性に加え、高い危機管理意識・人権意識、社会性、協調性と自己研鑽力及び子どもを愛し、育む情熱をもった人材の育成 ⑤「働き方改革」の具現化による、一人一人の教職員が、澁刺、颯爽と子どもたちのために働く学校経営の推進 ○教育活動 ①学習指導要領の趣旨を踏まえ、多様な児童生徒に自分らしい社会貢献を実現する力を育むことを目指した授業改善、教育課程改善の推進 ②地域関係機関及び地域社会との連携協働による教育活動の積極的展開、センタ一の機能の積極的な発揮による地域におけるインクルーシブ教育の推進及び共生社会の形成への積極的な貢献

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	・学校経営方針を具現化・具体化する、一体感のある学校経営の推進	・全教職員の組織的な取組としての仮設校舎における教育環境の充実	B	B	仮設校舎での不便さはあるが、交流及び共同学習の充実、体育館での会議や諸式の実施等、この環境において多くの工夫ができた。 「Go to R9」のテーマに沿って、各学部・分掌等において積極的に取り組み、それぞれ成果がみられた。業務分担の見直しに取り組み中であるが、さらなる改善が必要。
		・児童生徒、保護者、地域関係者との仮移転に関わる情報のタイムリーな共有	B		
		・学校経営方針を各学部、各分掌で意識した一貫したマネジメントの実施	B		
		・新校舎に移転する令和9年度の本校の姿を想定して取り組む「Go to R9」の具現化	A		
		・学校予算の適切且つ計画的な執行	B		
		・各学部、各分掌等における業務内容の徹底した精査による総業務量削減	B		
		・衛生委員会の機能を活用した健康で働きやすい職場環境の形成	B		
	・人が育つ研修会等の計画的推進	・本年度の重点の達成及びニーズに基づいた研修会の年間計画に沿った実施	B	B	アンケートや対話を重視した参加型の研修会を充実させた。
		・職員の人権意識、規範意識向上のための研修会の実施	B		
	・「向日が丘相談・支援センター」機能を生かした、地域のニーズに応え、インクルーシブ教育の推進に寄与する特別支援教育の推進	・地域の学校等に特別支援教育への理解と対応を実現する特徴ある取組の実施	B	B	改めて、顔の見える関係づくりを重視することで、高等学校からの相談依頼も増加し、信頼を得た。
		・校内巡回相談員の積極的活用等による組織的な相談支援の実施	B		
		・幼稚園・保育園、高等学校を含む関係機関等との連携・協働の強化	A	B	

教育課程・学習指導	・地域社会と協働する学校経営の推進 ・学校運営協議会の機能を活用した学校経営の改善	・HP、学校だより等を活用した学校情報の積極的発信（HP更新10回／月）	B	B	回数等積極的な情報発信はできたが、内容の充実と時期が課題。 R9を見据えた新たな協働について展開し、継続したい取組もできた。 府教委と連携し、安心安全の具体化に努めた。仮移転1年目に繰り返し実施した避難訓練は形を変えて継続したが、緊張感や意識には課題が残る。PTAの防災に関する関心が高く、様々な意見を得た。ヒヤリハットをTeamsで即時共有することで報告数が増え、校内の安全全般に対する注意喚起にもつながった。	
		・学校運営協議会の機能を活用した外部評価の実施	B			
		・地域社会連携部の機能を活用した新たな地域連携の創造と充実	B			
	・安心安全を具体化する取組の推進	・仮設校舎における安心安全を具体化する取組の推進	B	B		
		・適切な感染拡大防止対策の徹底	B			
		・避難訓練、緊急対応訓練の計画的実施（全校年2回以上）	C			
		・PTAとの連携による避難訓練等の実施	B			
		・医療的ケア担当者会の機能を活用した安全で適正なケアの実施	B			
		・児童生徒一人一人の人権を大切にする取組の推進 （いじめ対策委員会による調査と対応 2回／年、全校研修会の実施）	B			
		・教具等の安全点検の組織的な実施	B			
		・ヒヤリハット事象等の即時共有と教訓化	A			
	・社会との協働を大切にした「社会に開かれた教育課程」に基づく実践の積極的展開 ・多様な児童生徒に自分らしい社会貢献を実現する力を育む授業改善の推進	・学部及び全校での学習指導要領を踏まえた授業改善研究の実施	B	B		授業改善研究に主体的に参加できるよう、対話を中心とした研修方法に変更し、継続して実施した。自立活動の流れ図に基づく考え方や、時間における指導について全校で学び、意義を共通理解した。長法寺小学校との交流は特別なものから日常的なものになり、自然に関わる関係が構築できつつある。成果を近隣の学校間においても広げたい。
		・社会とのつながりを意識した授業実践の積極的展開	B			
		・全学級におけるICTを活用した授業改善の積極的展開	B			
・自立活動支援担当との連携による全児童生徒を対象とした「時間における指導」を中心とした自立活動の更なる充実		B				
・学部間の学びの連続性を意識した教育課程の改善		B				
・社会に開かれた行事としての「学校祭」の企画実施		B				
・インクルーシブ教育を意識した居住地校交流及び学校間交流の充実		A				
・一人一人の希望進路の実現 ・保護者、関係機関との連携による計画的な進路指導の推進	・組織的で計画的な進路指導による高等部3年生全員の将来の自己実現につながる進路決定	A	A	関係機関等との密な連携の下、本人中心の進路決定に努力した。学年制、コース制を生かした校内実習を行うことができた。企業や福祉事業所の見学会を実施し、保護者や教員が学ぶ場となった。		
	・全ての児童生徒の社会自立に向け、可能性を延ばす指導の実施	B				
	・研修会等の実施による保護者等への進路情報の提供・共有	A				

学校関係者 評価委員会 による評価	- 交流及び共同学習の充実等、地道な取組を継続することで、インクルーシブな学校運営の取組を深化させている。「してあげる」「してもらう」という関係ではなく自然に関わる姿や、そこに個々の良さがあるという気づきからも、相手校や地域の意識が変わりつつあることが実感できる。自分らしさを豊かに発揮できるこの自然な関わりこそが、社会の在るべき姿そのものであろう。Go to R9の取組のさらなる充実に期待する。 - 学校の安心安全については保護者が一番心配するところであり、ヒヤリハット事象の全校共有の取組は安心できる。一方、避難訓練については、組織で子どもたちの命を守るという意識を高く持ち、改善のために課題を吟味してもらいたい。日々どう過ごし、訓練当日をどう迎えるかということも大切である。 - 高等部における進路指導は高く評価できる。同時に本人や保護者にとっては小中学部からの広義の進路指導が重要である。12年間を見通した指導に期待する。
次年度に向けた改善の方向性	- 学校防災会議、健康安全教育部の機能を生かしたさらなる安心安全を具体化する取組の推進（避難訓練、ヒヤリハット共有等） - 交流及び共同学習の充実、授業改善等をおし、乙訓地域唯一の特別支援学校として必要とされるインクルーシブな学校運営の実現と、共生社会の担い手の育成 - 児童生徒と教職員のウェルビーイング向上をめざし、子どもたちの可能性が輝く授業の実現や充実した教育課程編成（R8年度から実施を目指す）等、Go to R9（2/3年目）のさらなる充実